



NPO法人  
有明海再生機構

Ariake Bay  
Rehabilitation Organization

## 有明海の再生へ

～豊饒で人々にやすらぎを与える海を目指して～

### 18年度再生機構の活動状況

#### 平成18年5月21日 17年度成果発表会を開催【写真①】

今回の成果発表会においては、再生機構の研究活動報告に加え、国、大学における有明海再生への取り組みについて関係者からの報告、そして「これまでの有明海再生研究で何が解明されて、何が未解明か?」と題して全体討論を行いました。 ※2面をご覧ください。



① 成果発表会 全体討論の様相

#### 平成18年8月～10月 漁業者ヒアリング調査を実施

漁業者の方から、過去の有明海の漁業実態や海況、特に流況、底質・干潟、魚類、貝類について、過去から現在までの変化を中心に聞き取りを行いました。有明海の過去からの変遷に詳しい漁業者の方から有明海的环境変化について聞き取りを行って、その経験知に基づく情報を収集整理し、今後の有明海再生に向けての検討に役立てていこうと実施したものです。

※3面をご覧ください。

#### 平成18年8月 有明海再生に係る研究費等助成事業に3件決定

有明海再生に係る調査研究や環境改善技術の開発推進を目的とするもので助成事業を公募し、審査により3件に対し助成を行いました。 ※2面をご覧ください。

#### 平成18年9月 大川市環境シンポジウム「有明海の再生をめざして」をプロデュース

※4面をご覧ください。

#### 平成18年10月 18年度有明海干潟底質調査に着手【写真②】

17年度調査の結果を踏まえて、実施するもので、佐賀県白石町、東与賀町、川副町の沖合の3ヶ所で底泥のサンプル採取を行いました。

※4面をご覧ください。



② 底泥サンプル採取作業(川副沖)

#### 平成18年10月～12月 再生技術コンサルティング事業を実施

当機構支援会員が有する有明海環境改善技術等について、機構正会員の研究者の方が助言や指導等を行い、支援会員の事業活動を支援していくものです。昨年3月、支援会員に対して相談事項のアンケート調査を実施、8社からの相談事項があり、分野に応じた研究者が相談者との面談の中で指導・助言を行いました。

#### 平成18年10月～平成19年3月 有明海講座を開講

「神秘の海 有明海」を多くの方に知っていただくために、有明海の自然や生態を題材とする「有明海講座」を開催しました。第1回目「有明海の特産魚類」(講師:高知大学木下泉教授)を皮切りに月に1回のペースで6回開催し、毎回50人ほどの参加をいただきました。 ※2面をご覧ください。

#### 平成18年11月 長崎大学・韓国海洋研究所主催の干潟シンポジウムにおいて機構調査研究を報告

韓国安山市で開催されたシンポジウムにおいて、当機構の調査研究成果として、17年度から実施している「干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究」の成果等を報告しました。 ※4面をご覧ください。

#### 平成18年12月～平成19年3月 有明海(佐賀県海域)地理情報図を作成

有明海の地形情報、水産情報などをデジタルデータの地理情報図として整備し、有明海再生に向けての調査研究の基礎データとして関係機関や研究者等に提供していくものです。今回は、「海底地形図」を含め4種類の地理情報図を作成しました。

※3面をご覧ください。

## 17年度成果発表会を開催

17年度再生機構活動の総括と2年目に向けて成果発表会を開催しました。当日は県内外から大学、企業の研究者、漁業者、一般県民、行政関係者など約170名の参加がありました。今回の成果発表会は、再生機構の研究活動報告だけにとどまらず、「有明海再生」をキーワードとして、国や大学で実施されている有明海再生への取り組み・研究成果など有明海再生に向けての全体的な動きを伝えていくコンセプトで開催しました。

第1部では、機構の研究活動報告として、「干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究」の成果報告と当機構が平成17年度に公募・助成した「有明海再生に係る研究費等助成事業」の成果について各事業実施者から報告がありました。

第2部では、環境省や有明海沿岸4県の各大学研究者から、国や大学での有明海再生に向けての取り組み・研究成果についてご講演いただきました。

第3部では「これまでの有明海再生研究で何が解明され、何が未解明か」をテーマに全体討論を行いました。九州大学、長崎大学、佐賀大学でそれぞれ取り組まれている有明海再生に向けての研究プロジェクトの研究成果、当機構生産分科会での議論、環境省総合調査評価委員会での議論を中心に、会場参加者をまじえて意見が交わされました。



全体討論での会場との質疑応答

## 有明海講座を開催

「有明海の特産の魚介類たち」、「食の代表選手、海苔」、「広大な干潟」、「最大6メートルの干満差」など、有明海ならではの生態や自然の素晴らしさを県民の方にお知らせしていこうと6回シリーズで開催しました。毎回、50名ほどの参加をいただきました。講師の方からは、写真やグラフなどの映像をまじえて一般の方にも分かりやすくお話しをしていただきました。



有明海講座の様様

(有明海講座内容)

回	テーマ	講演者
1	「有明海の特産魚類」	高知大学総合研究センター海洋部門 木下 泉 教授
2	「有明海のノリ」	佐賀県有明海再生課 川村 嘉応 博士
3	「干潟の成長とそれに伴う環境問題」	佐賀大学農学部 加藤 治 教授
4	「有明海の二ゴリと干潟の機能」	佐賀大学理工部 田端 正明 教授
5	「有明海と佐賀低平地の成り立ち」	九州大学大学院理学研究院 下山 正一 助手
6	「有明海の二枚貝」	佐賀県有明水産振興センター 有吉 敏和 専門研究員

## 有明海再生に係る研究費等助成事業（公募）を3件採択

研究者や企業、NPOが行う有明海再生に向けた環境改善技術の開発等に関する調査・研究等に対して助成するもので、研究者・企業などから応募があり、選定委員会において3件を採択しました。

実施者	テーマ
長崎大学 多田彰秀教授	「DBF海洋レーダを用いた諫早湾湾口部の表層流動に関する調査」
佐賀大学 田端正明教授	「有明海海中の超微量金属元素の濃度の変化がもたらすプランクトン発生とノリの生育に及ぼす影響」
東京久栄(株)	「干潟打ち水によるアサリ等二枚貝の生産力増強効果に関する調査」

お知らせ

**19年度通常総会及び18年度事業成果発表会を開催します。**

日程／平成19年5月19日(土) 場所／増田会館 パル21 (佐賀市鍋島)

・総会  
 ・事業成果発表会

※詳細は決まり次第ホームページ等でお伝えします。

## 漁業者ヒアリング調査を実施

今回の聞き取り調査は、有明海再生の調査研究に資するため、既往の統計値や科学的データでは十分に把握できない有明海の環境変化や既往資料が不足している情報について、有明海の過去からの変遷に詳しい漁業者や水産研究者に対して聞き取りを行い、皆さんの経験に基づく情報を得ることを目的としたものです。

調査に当たっては、有明海沿岸の17漁業協同組合の過去からの変遷に詳しい50歳代～70歳代の漁業者（各漁協3～6人）を対象に、特に流況（潮位、潮高、流速の変化、下層流速の低下、流向の変化、変化の時期）、底質・干潟、魚類、貝類について過去から現在までの変化を中心に聞き取りを行いました。

この聞き取り調査で得られた漁業関係者の経験が、これからの再生に向けた調査研究に寄与することを願うところです。

（調査結果報告書を作成し、正会員など研究者に配布しております。）



## 18年度有明海干潟底質調査に着手

当機構では、平成17年度から佐賀県からの委託事業として、「干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究」を実施しています。

この研究は、有明海の干潟・浅海域の底質泥を分析し、過去から現在までの生物生産や底質環境の長期的な変遷を把握するとともに、それぞれの時代の底質の物質循環を解明し、有明海の生物・底質再生への見通しを明らかにしようとするものです。

平成18年度は、平成17年度の結果を踏まえ、白石町、東与賀町及び川副町沖の干潟域において、ハンディジオスライサーを用い、深度1m程度の堆積物を採取しました。また、川副沖の干潟では、D・E・F・G地点で、深度10cmの表層バルクサンプリングも併せて行いました。

採取した試料は、各種分析を行っており、その成果については、ホームページ等で広く公表して行く予定です。



干潟試料採取地点

## 大川市環境シンポジウム「有明海の再生をめざして」(有明海再生機構プロデュース)を開催

当機構は、大川市から委託を受けて、このシンポジウムの企画・運営をプロデュースしました。

当日は、有明海再生に関心を寄せる大川市民を始め、福岡県、佐賀県などから600名が参加されました。

第1部では、当機構の楠田理事長から「有明海再生への道しるべ」と題して、有明海現状、環境劣化の因果関係、そして有明海再生への道についての講演と、衆議院議員鳩山議員から「地球環境と地域環境」と題して講演がありました。第2部「再生への道を目指して」のパネルディスカッションでは、当機構の荒牧副理事長から、有明海の歴史を知る、有明海の食を楽しむ、有明海で様々な人と出会う、そんな有明海を通しての楽しみを皆さんに伝えていきたいとお話がありました。

最後に、大川市長から、このシンポジウムを機に、我々のアイデンティティーの基礎になっている有明海、筑後川の偉大さを再認識し、皆で知恵を持ち寄り有明海を再生していく新しいきっかけになれば本当に素晴らしいことだと結ばれました。



パネルディスカッションの模様

## 長崎大学・韓国海洋研究所主催の干潟シンポジウムにおいて機構の調査研究成果を報告

11月9日、韓国安山市において、長崎大学と韓国海洋研究所による共同シンポジウム「大規模干潟開発による海洋環境の変化～セマングムと諫早の比較研究～」が開催され、機構から楠田理事長、荒牧副理事長、正会員の堤裕昭熊本県立大学教授が参加。堤教授が機構からの調査研究報告として「干潟における底生生態系の劇的な衰退と干潟への河川からの土砂供給の変化の影響」と題し、機構が実施している「干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究」の結果をまじえて報告を行いました。また、韓国側からは韓国西岸の大規模干潟開発であるセマングム干拓における環境変化などについて、長崎大学側からは有明海の環境変化などについて貴重な研究報告があり、活発な議論が交わされました。



堤教授からの報告

### 編集後記

昨年末に「有明海・八代海再生特別措置法」に基づく評価委員会報告が出され、有明海再生に向けた動きが一つの節目を迎えています。

当機構も、設立目的である「豊饒で人々にやさらぎと与える海をめざして」、再生に向けての活動を進めてまいりますのでご指導・ご支援の程よろしくお願いたします。

発行 NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0833 佐賀市中の小路4-30高取ビル302号  
 電話 (FAX兼用) 0952-26-7050

メールアドレス: npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp  
 ホームページアドレス: <http://www.npo-ariake.jp/>